

## 平成 26 年度重点施策と関連設備投資について

平成 26 年度も鉄道事業における安全・安定輸送の確保を最優先に、東海道新幹線の脱線・逸脱防止対策をはじめとする地震対策、土木構造物の大規模改修工事、N700Aの投入及びN700系の改造工事、武豊線の電化工事、気動車の取替等を着実に推進します。

また、超電導リニアによる中央新幹線計画については、環境影響評価書の公告、工事実施計画の認可申請を行うとともに、工事計画を着実に進めます。

あわせて、名古屋駅におけるJRゲートタワー計画、また海外における高速鉄道及び超電導リニアプロジェクトへの取組みなどを着実に推進します。

こうした各種課題を着実に進めるため、引き続き、収益力の強化と技術レベルの不断の向上に取り組むとともに、設備投資を含めた業務執行全般にわたり知恵を絞り効率化と低コスト化を徹底し、経営体力の充実を図ります。

### I. 重点施策（別紙参照）

- 安全・安定輸送の確保
- 東海道新幹線における輸送サービスの充実
- 在来線における輸送サービスの充実
- 超電導リニアによる中央新幹線計画の推進
- 超電導リニア技術のブラッシュアップ及びコストダウン
- 営業施策の強化
- 技術力の強化、海外プロジェクトへの取組み、地球環境保全
- 関連事業の着実な推進
- 東海道新幹線開業50周年企画の実施

### II. 設備投資額

連結：3,260億円、単体：3,010億円（うち安全関連投資1,880億円）

# 安全・安定輸送の確保

(設備投資額：1,360億円)

鉄道事業の原点である安全・安定輸送の確保を最優先に取り組みます。

- ・ 東海道新幹線における土木構造物の健全性の維持・向上を図るため、不断のコストダウンを重ねながら大規模改修工事を着実に進める。
- ・ 地震に対する耐力をさらに強化するため、引き続き東海道新幹線の脱線・逸脱防止対策を推進するとともに、在来線の高架橋柱等の耐震化や浜松工場、名古屋工場、駅舎等の建替・耐震補強工事を推進する。
- ・ 在来線について、落石対策、踏切保安設備改良等を推進する。
- ・ 東海道本線の運行管理システム更新について、名古屋地区で新システムへの切替を完了するとともに、静岡地区での工事を引き続き進める。
- ・ 津波対策について、各自治体のハザードマップを踏まえつつ、実戦的な訓練の実施により錬度を向上させる。



大規模改修工事（コンクリート橋：変状発生抑止対策）



東海道新幹線の脱線・逸脱防止対策



名古屋工場の耐震化後イメージ

(参考) ・ 新幹線の大规模改修工事：当初3年間で930億円（平成26年度は350億円）  
・ 新幹線の脱線・逸脱防止対策：脱線防止ガード 約80km（平成26年度）

・ 浜松工場建替：平成29年3月 新ラインによる全般検査開始予定  
・ 名古屋工場耐震化：平成34年3月 工事完了予定  
・ 駅舎耐震化：吉原駅（平成26年度完了予定）、  
清洲駅（平成27年度完了予定）

# 東海道新幹線における輸送サービスの充実

(設備投資額：440億円)

東海道・山陽新幹線において、平成26年3月に実施した「のぞみ10本ダイヤ」などにより、引き続き輸送サービスの充実に取り組みます。

- ・「のぞみ10本ダイヤ」により、需要にあわせた弾力的な列車設定に取り組む。
- ・長期にわたる改良工事を終えた新大阪駅引上線や27番線ホームを有効に活用し、災害等の異常時におけるダイヤの安定性の向上を図る。
- ・新型車両N700Aの投入及びN700系の改造工事を引き続き推進する。
- ・平成27年春に予定している、最高速度270km/hから285km/hへの速度向上の実施に向けて、諸準備を着実に進める。
- ・東京駅・名古屋駅における新型可動柵の設置工事を引き続き推進するとともに、京都駅への設置工事に着手する。



新大阪駅 引上線増設



N700A

(参考) ・ N700A : 31編成投入 (平成24年度6編成、平成25年度7編成、平成26年度6編成、平成27年度6編成、平成28年度6編成)

・ 新型可動柵 :  
東京駅18・19番線 平成27年3月末までに順次使用開始予定  
名古屋駅15～17番線 平成28年3月末までに順次使用開始予定  
京都駅11～14番線 平成28年3月末までに順次使用開始予定

# 在来線における輸送サービスの充実

(設備投資額：120億円)

武豊線電化工事や気動車の取替など、諸施策に積極的に取り組みます。

- ・平成27年春に向け、**武豊線の電化工事**を完遂するとともに、新製電車を投入する。
- ・**気動車を新製**し、本年度に高山本線・太多線、平成27年度に紀勢本線・参宮線に順次投入する。
- ・駅におけるエレベーター・多機能トイレの設置や内方線付き点状ブロックへの取替等の**バリアフリー設備の整備**を引き続き推進する。



武豊線電化工事



駅におけるエレベーターの設置（亀崎駅）

(参考) ・武豊線の電化開業時期：平成27年春予定  
・電車の新製：313系電車28両新製（平成26年度）  
・気動車の新製：キハ25形気動車52両新製  
（平成26年度16両、平成27年度36両）

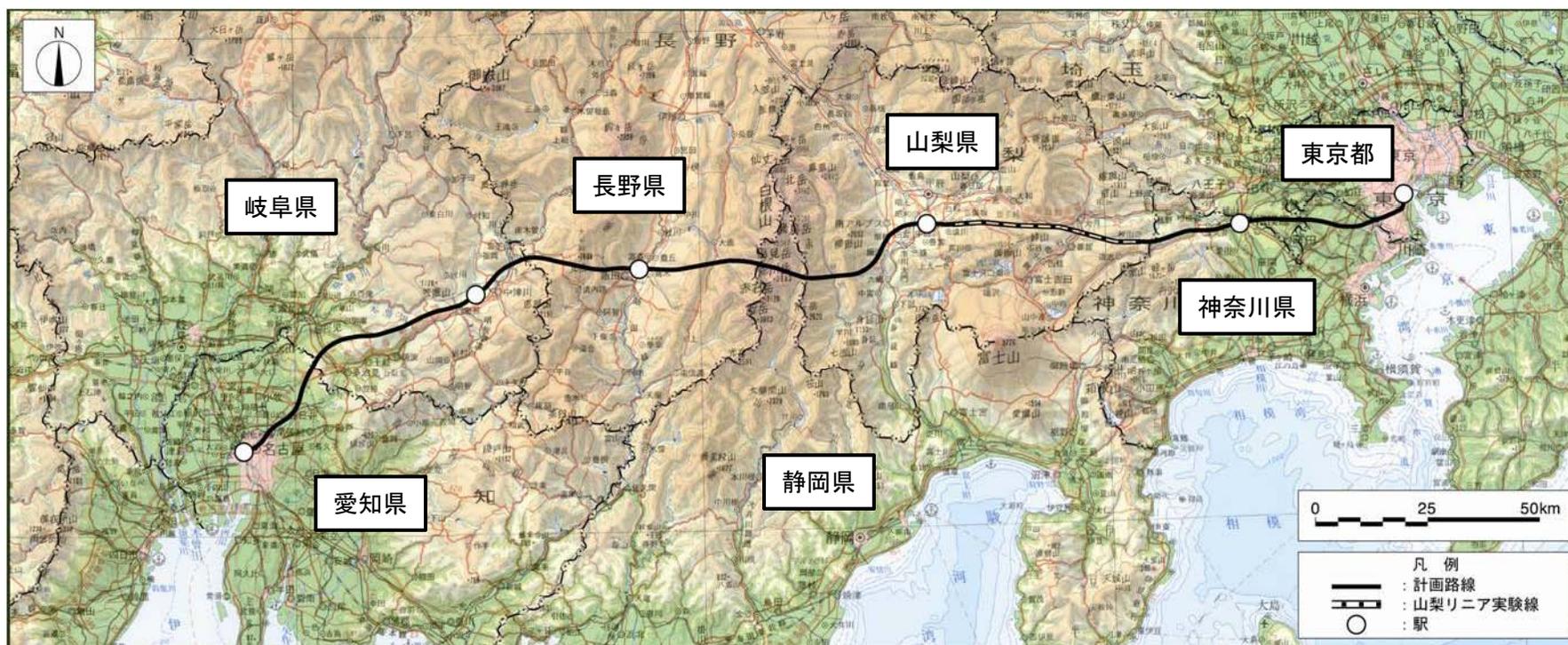
・エレベーター・多機能トイレの設置：  
エレベーター6駅11基、多機能トイレ4駅（平成26年度）  
※うち橋上駅舎化（エレベーター2駅3基、多機能トイレ1駅）  
・内方線付き点状ブロックへの取替：8駅（平成26年度）

# 超電導リニアによる中央新幹線計画の推進

(設備投資額：230億円)

超電導リニアによる中央新幹線の実現に向けて着実に取り組めます。

- ・ 東京都・名古屋市間において環境影響評価書の公告、工事実施計画の認可申請を行うとともに、工事計画を着実に推進する。
- ・ 中央新幹線の高度かつ効率的な運営・保守体制の構築に取り組む。



中央新幹線（東京都・名古屋市間）の路線

(参考)・中央新幹線（東京都・名古屋市間）の環境影響評価の進捗：

平成25年9月20日  
平成25年11月25日  
平成26年3月20日～25日

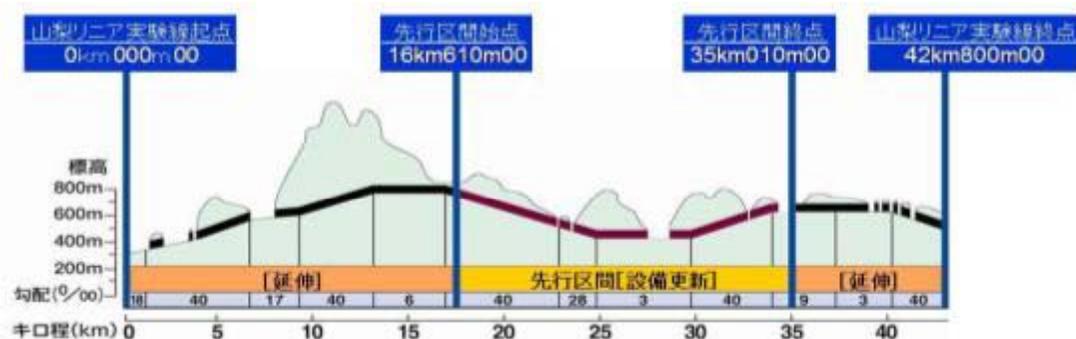
環境影響評価準備書（「準備書」）を公告  
準備書に対する意見の概要・事業者の見解を送付  
沿線7都県から準備書に対する知事意見を受取り

# 超電導リニア技術のブラッシュアップ及びコストダウン

(設備投資額：210億円)

超電導リニア技術のブラッシュアップ及びコストダウンに引き続き取り組みます。

- ・山梨リニア実験線において、**営業線仕様の車両、設備により、最長12両編成での長距離走行試験**を実施するとともに、**車両や地上設備の営業運転に対応した保守体系の確立に向けた確認試験**を行う。
- ・さらなる超電導リニア技術のブラッシュアップ及び営業線の建設・運営・保守のコストダウンに取り組む。
- ・「**超電導リニア体験乗車**」について、諸準備を着実に進め、本年度内に実施する。



山梨リニア実験線



新型車両L0系

(参考) ・山梨リニア実験線：  
平成25年8月29日 新設備による走行試験再開

・L0（エル・ゼロ）系：14両製作（現在7両編成で走行試験を実施）  
平成26年度末までに全14両投入完了予定

# 営業施策の強化

(設備投資額：90億円)

増収に向けた営業施策を積極的に展開します。

- ・「エクスプレス予約」及び「プラスEX」サービスの会員数拡大・ご利用拡大に向けた取組みを強化する。
- ・京都・奈良等の恒久的な観光資源を活かした各種キャンペーン、世界文化遺産に登録された富士山をテーマにした新たな需要の喚起や、海外のお客さま向け商品の拡充等、営業施策の積極的な展開に取り組む。
- ・東海道新幹線開業50周年企画として、記念商品やお得な商品の発売等を実施し、新たな需要を喚起する。
- ・「さわやかウォーキング」、「Shupō」、「高山本線全線開通80周年」企画等の地域と連携した取組みを通じ、お客さまのご利用拡大に努める。



「エクスプレス予約」・「プラスEX」ポスター



「そうだ 京都、行こう。」キャンペーン

# 技術力の強化、海外プロジェクトへの取組み、地球環境保全

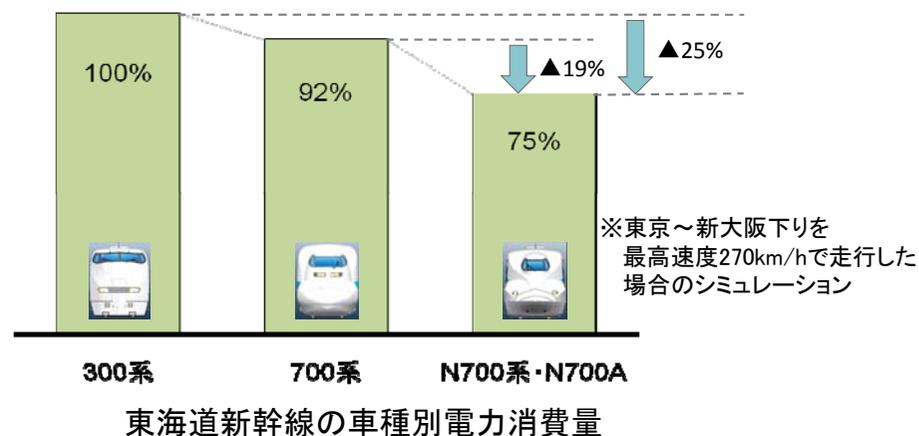
(設備投資額：10億円)

鉄道の経営・発展を支える技術力の不断の向上に取り組むとともに、海外における高速鉄道及び超電導リニアプロジェクトへの取組みを推進します。また、地球環境保全に向けた取組みを引き続き進めます。

- ・ 技術開発により大規模改修等の設備の維持更新におけるコストダウンを進めるとともに、輸送サービスや自然災害対策等の充実につながる**実用技術の研究開発**を推進する。
- ・ 高速鉄道及び超電導リニアに関する技術力を活用し、海外におけるプロジェクトについて、対象路線における事業化に向けたマーケティング活動等を推進する。
- ・ 「Crash Avoidance（衝突回避）」の原則に基づく**日本型高速鉄道システムを国際的な標準とする取組み**を推進する。
- ・ 省エネ型車両への取替等の地球環境保全に資する諸施策を推進する。



試験トラス橋



(参考) ・ 「Crash Avoidance」の原則：

平面交差のない高速旅客鉄道専用の軌道と、速度を制御し、絶対に衝突を防ぐATCシステムの2つの仕組みによって、衝突の可能性を排除

# 関連事業の着実な推進

(設備投資額：330億円)  
(うち連結子会社の設備投資250億円)

名古屋駅におけるJRゲートタワー計画を着実に進めるとともに、既存事業の競争力強化と収益拡大を図ります。

- ・「JRゲートタワー」の建設を着実に推進するとともに、開業に向けて事業内容等の具体化、テナントリーシングを積極的に進める。
- ・駅ビル事業や流通事業の活性化に取り組み、さらなる収益拡大を図る。
- ・より安全・安心な食の提供に向けて、引き続き農業事業の充実を図る。



「JRゲートタワー」完成イメージ（右側）



アスティ京都「アスティロード」

(参考) ・JRゲートタワー：平成28年11月 オフィス入居開始予定  
平成29年4月 タカシマヤ、ホテル開業予定  
(延べ面積 約26万㎡、高さ 約220m、階数 地上46階)

# 東海道新幹線開業50周年企画の実施

これまで東海道新幹線をご利用いただいた数多くのお客さまへ感謝の気持ちを伝えるとともに、より一層東海道新幹線への理解を深めていただく取組みを行います。

- ・ 記念企画商品の発売、グループ会社やリニア・鉄道館等での各種催し等を実施する。
- ・ 東海道新幹線開業50周年記念高速鉄道国際会議（仮称）を開催する。



東海道新幹線出発式（昭和39年10月1日）



東海道新幹線開業50周年ロゴ